

シリーズで学ぶ！新人職員のための基礎知識



講師：山内 哲也
(社会福祉法人武蔵野会 リアン文京 総合施設長)



Step 10



「コンプライアンス、守れていますか？」



講義のポイント

今回の講義のポイントは…

- ① **コンプライアンスと職業倫理**
- ② **組織と個人の腐敗と不正のメカニズム**
- ③ **職場のコンプラ違反あるある**
- ④ **コンプライアンス違反の防止**

…となっています。

コンプライアンス（法令順守と行動規範）

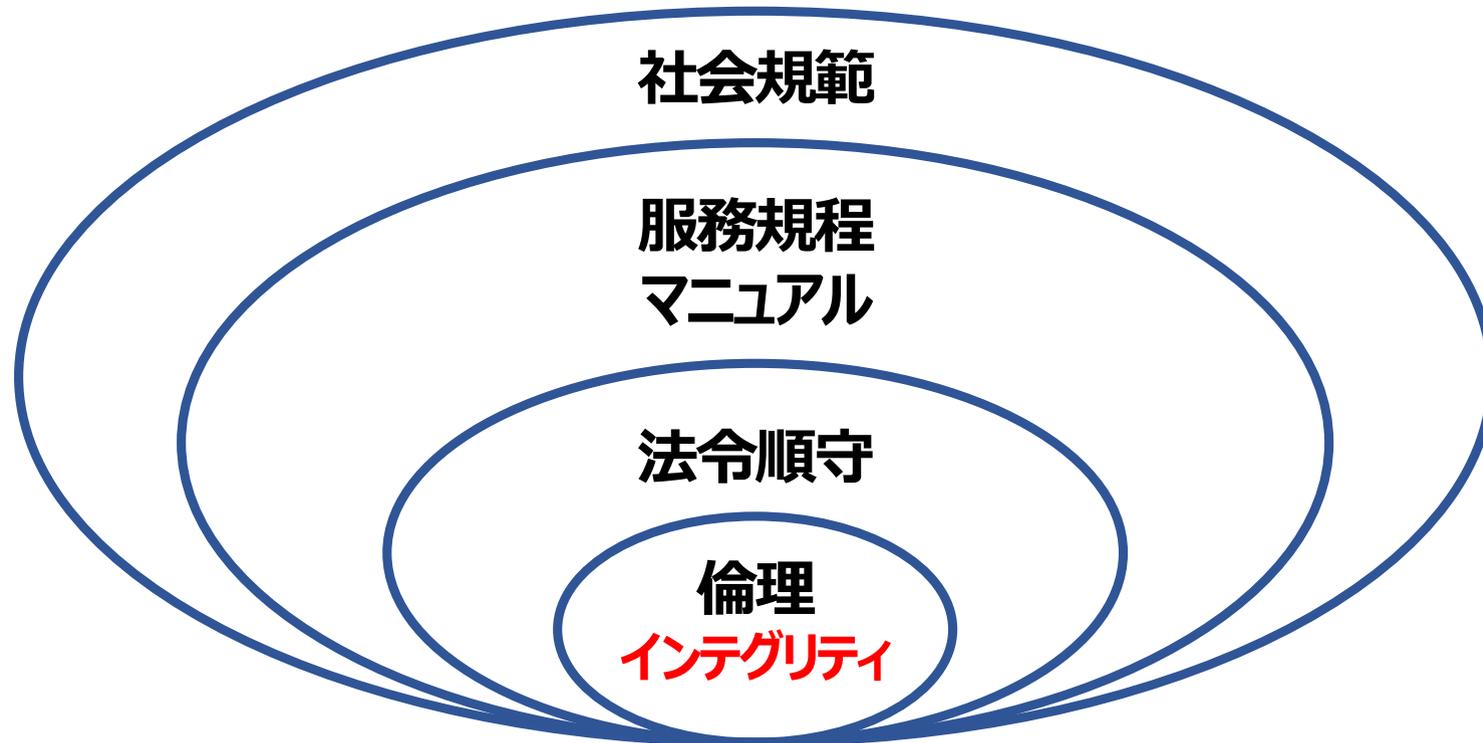
当たり前のことであり、最低限守るべきルール

- 狭義には 法令順守
- 広義には 法律に明文化されていない社会規範(社会的ルール)も含む



福祉におけるコンプライアンス（法令順守と行動規範）は、単なる法令の順守と最低基準を守るだけではなく、利用者・職員等の人権擁護、サービスの品質向上を図っていく事業所・職員の行動指針となるものであり、①コンプライアンスルールを運用するシステムであり、②職員一人ひとりの個人の職業倫理に基づく自覚と責任、特に正直さの実践と共に高い倫理的原則と福祉の価値観をもって一貫し、妥協なくそれらを順守する態度としてのインテグリティ（誠実さ: Integrity）として捉える

コンプライアンスの範囲



社会福祉施設の運営

- 制度や法律を根拠に事業が行われている
- 契約によるサービスの履行
- 公共性、公益性、透明性、安定性、そして、高い倫理性が求められる事業



知らない、できない、わからないままにしておけない
職員一人一人がコンプライアンスを守ろうとする意識が重要
施設や個人の都合で解釈してはいけない
利用者や家族・地域など信頼関係を損ない、社会的信用を失う
時には、刑事・民事の処罰や社会的批判を受け、事業継続が困難になる

【コンプライアンスリスク】

人権侵害・法令違反・施設内ルール違反・事故過失・不正・社会的要請への対応不足



法的処罰・事業停止・組織崩壊・社会的信用失墜へ

職業倫理

- 福祉従事者に求められる行動の倫理規範
- 倫理綱領を理解し、明確な倫理観を持つこと
- 職業倫理に基づく実践が専門職としての成長を促す

倫理綱領 日本社会福祉士会 (jacsw.or.jp)

倫理綱領 日本介護福祉士会 (jaccw.or.jp)

職業倫理の原則

- 正直さ
- **インテグリティ**（誠実さ・真摯さ・高潔性・一貫性）
- 透明性（隠し事をしないこと）
- アカウンタビリティ（説明責任）
- 守秘義務
- 客観性
- 相手に対する尊重・尊敬の念
- 順法（いわゆるコンプライアンス）
- 忠誠心

組織と個人の腐敗（モラル低下）

本来、だれでもよいことと悪いことはわかっている
慣習や環境、ストレスなどの様々な理由で無視したり、
怠けたり、実行しなかったりするのが人間



最初にあった後ろめたさや後悔の良心の壁はどんどん低くなる



集団は組織の特性（組織風土：慣習・暗黙の了解・同調圧力）
から腐敗を生みやすく、腐敗は個人から始まり全体に蔓延



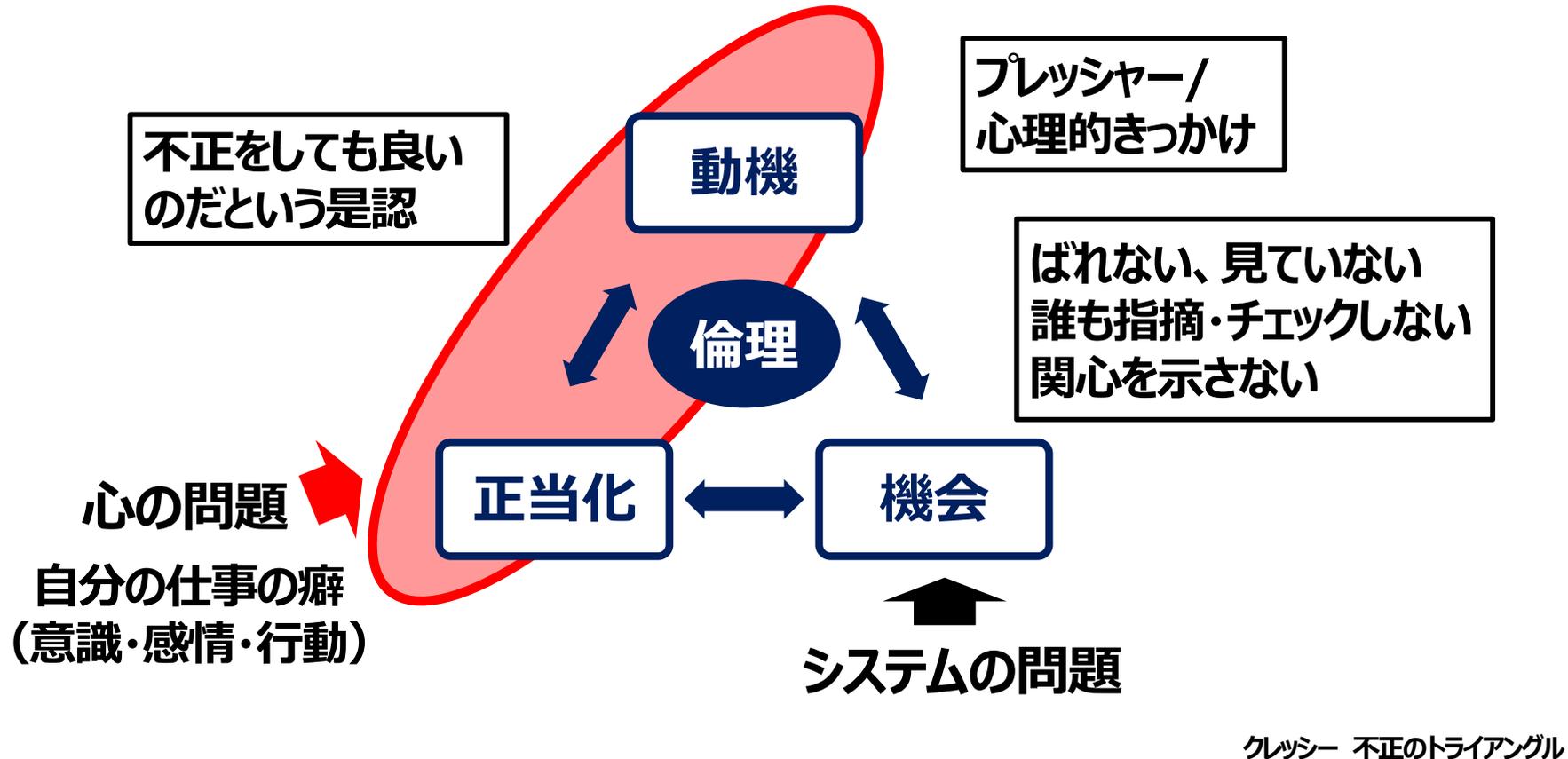
個人と組織レベルで繰り返し考え、意識と行動を
再修正していく必要



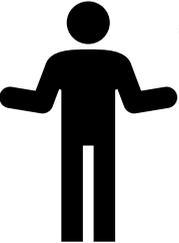
個人がコンプライア
ンスを意識して判
断すること
が重要



不正のメカニズム = コンプライアンス違反の原因



職場のコンプライアンス違反あるある

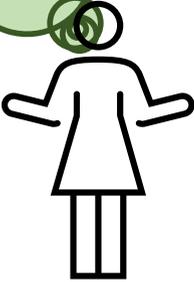


ルールを知る努力
法律・制度知らず
これくらいならからは
じまるモラル低下

不作為・怠慢
虚偽 逸脱・乱用
私利益 隠ぺい
情報不開示
尊厳の軽視



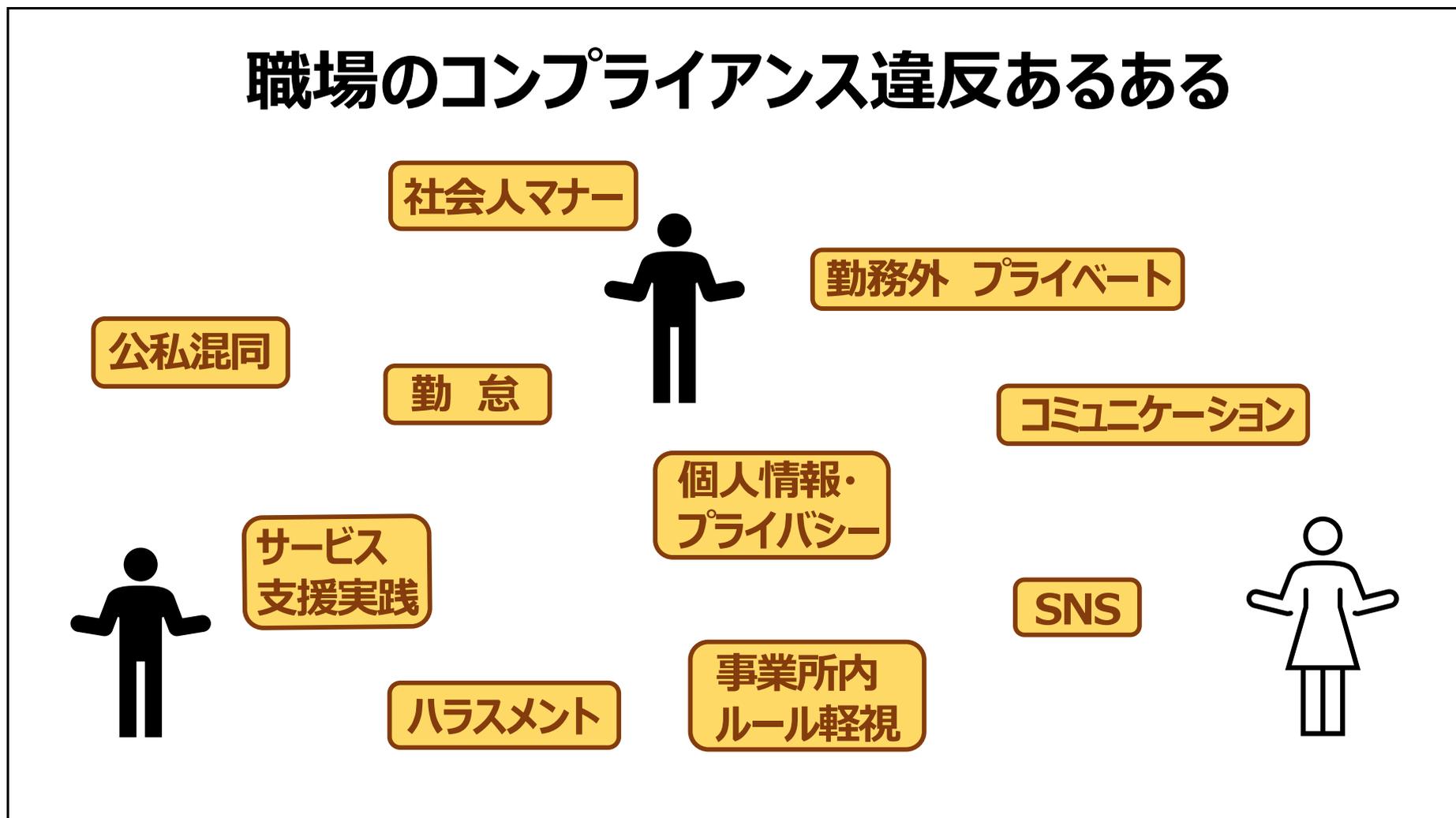
社会人の心がけ
施設外はOK？
上司の言うことは
絶対？



コンプライアンス
違反を知らずに
行っている？

これまでやってきた
みんなやってる
これくらいはOK？
忙しいから？

職場のコンプライアンス違反あるある



コンプライアンス違反の防止

自己都合からコンプライアンス意識へ

- 公正さや倫理を最初の判断基準に置く
- コンプライアンスの目的はWell-being
- 法律や規則を知る努力
- コンプライアンスルールの根拠を理解
- 職業倫理・行動規範を理解する
- 自分の行動や行為が法令や倫理に違反していないかを振り返る
- 倫理綱領や行動規範を自らの支援実践の根拠とする
- 社会や周囲の人から期待や求められている規範を考える
- 自分の行動や行為がどのように解釈されるかを客観的にふりかえる
- 物事の適正や重要度の判断は自分でなく、
第三者や社会が判断することを認識する

コンプライアンス違反の防止

つづき

自己都合からコンプライアンス意識へ

【 100 - 1 = 0 】
組織のゆるみ ⇔ 個のゆるみ

①倫理観を個人レベルで理解



②社会のかかわりの中で実践



③倫理やコンプライアンスを貫く勇気



④他者の倫理的行動を支援できる



⑤誠実さで働きやすい組織風土づくり

自分の胸に問いかける

- ✓ 真摯に仕事に取り組んでいるか
- ✓ 誠実な言動を実践し、相手のことを尊重しているか
- ✓ 倫理綱領や行動規範を意識して支援実践を行っているか
- ✓ ルールは守っているか。守ろうとしているか
- ✓ 報告・連絡・相談はきちんとおこなっているか
- ✓ 悪いのは間違いよりも隠すこと
- ✓ はじまりは、「ばれない」「これくらい」「みんながやっている」という正当化
- ✓ 良心に照らして胸を張れるか
- ✓ 家族や友人に話して恥ずかしくないか
- ✓ 自己都合で正当化していないか。本当に正しいと思っているか

本日のまとめ

- **コンプライアンスや倫理規範を福祉人としてしっかり学ぼう**
- **インテグリティ（誠実さ）を仕事の基本に置こう**
- **コンプライアンスルールは利用者のWell-beingの向上**
- **公正さや倫理を最初におく判断基準とする**
- **倫理やコンプライアンスを貫く勇気をもつ**
- **コンプライアンス違反があれば一人で悩まずまず相談**

今回の課題

- シート「自分の胸に問いかける」の中で、どの項目を特に意識しようと考えましたか？書いてみましょう。